

第一日曜日
主日第一礼拝 9:00～
主日第二礼拝 10:30～
その他の日曜日
教会学校 9:00～
聖書を読む会 9:00～
主日礼拝 10:30～

日本基督教団 麻布南部坂教会月報

2021 (令和3年) 2. 14

牧師 松谷 祐二

〒106-0047 東京都港区南麻布4-5-6 Tel & Fax 03 (3473) 1276
E-mail church@nanbuzaka.com http://www.nanbuzaka.com/

印刷 有限会社 創文社 Tel (3491) 8321

祈祷会
第2日曜日 礼拝後
成人会
第3日曜日 礼拝後
婦人会
第4日曜日 礼拝後
教会附属 南部坂幼稚園

「主は生きておられる」

牧師 松谷 祐二

列王記上 第二十七章一～一六節

ギレアドの住民である、ティシユベ人エリヤはアハブに言った。「わたしの仕えているイスラエルの神、主は生きておられる。わたしが告げるまで、数年の間、露も降りず、雨も降らないであろう。」主の言葉がエリヤに臨んだ。「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる。」エリヤは主が言われたように直ちに行動し、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに行き、そこにとどまった。数羽の鳥が彼に、朝、パンと肉を、また夕べにも、パンと肉を運んで来た。水はその川から飲んだ。しばらくたって、その川も涸れてしまった。雨がこの地方に降らなかつたからである。また主の言葉がエリヤに臨んだ。「立ってシドンのサレプタに行き、そこに住め。わたしは一人のやもめに命じて、そこであなたを養わせる。」彼は立ってサレプタに行った。町の入り口まで来ると、一人のやもめが薪を拾っていた。エリヤはやもめに声をかけ、「器に少々水を持って来て、わたしに飲ませてください」と言った。彼女が取りに行こうとすると、エリヤは声をかけ、「パンも一切れ、手に持って来ててください」と言った。彼女は答えた。「あなたの神、主は生きておられます。わたしには焼いたパンなどありません。ただ壺の中に一握りの小麦粉と、瓶の中にわずかな油があるだけです。わたしは二本の薪を拾って帰り、わたしとわたしの息子の食べ物を作るところです。わたしたちは、それを食べてしまえば、あとは死ぬのを待つばかりです。」エリヤは言った。「恐れてはならない。帰って、あなたの言ったとおりにしなさい。だが、まずそれでわたしのために小さいパン菓子を作って、わたしに持って来な

さい。その後あなたとあなたの息子のために作りなさい。なぜならイスラエルの神、主はこう言われる。主が地の面に雨を降らせる日まで、壺の粉は尽きることなく、瓶の油はなくならない。」やもめは行って、エリヤの言葉とおりにした。こうして彼女もエリヤも、彼女の家の者も、幾日も食べ物に事欠かなかつた。主がエリヤによって告げられた御言葉のとおり、壺の粉は尽きることなく、瓶の油もなくなかなかつた。

(新共同訳聖書)

ダビデの王国は、ソロモンの死後、北イスラエルと南ユダの二王国に分裂してしまいました。北イスラエル最初の王ヤロブアムは、宗教的権威を強化するため、聖所を増やして金の子牛の像を立てましたが、これは偶像礼拝のものになりました。他方の南ユダでも、神殿がありながら、偶像礼拝が盛んでした。

北王国も南王国も、アブラハムの子孫であり、彼らの神、主がモーセを通して奴隷の家エジプトから導き出してくださいました、その民の子孫です。それなのに、「あなたには私のほかに神があつてはならない」という十戒の第一戒、偶像礼拝を禁じた第二戒に、彼らは真つ向かか背きました。それが主に対する罪だ、とすら思わなかつたようです。宗教が適当にごちゃ混ぜに信じられる現代の日本のありようは、これに似ているかもしれせん。北イスラエルの歴代の王たちの中で、悪名高い一人とされているのがアハブ王です。彼は隣国シドン(今日のレバノンの辺り)から妃を迎え、「シドンのバアル」を崇める異教を積極的に導入し、神の怒りを招きました。

預言者エリヤが神から遣わされ、数年間の干ばつをアハブに預言します。「わたしの仕えているイスラエルの神、主は生きておられる」とは、「主が生きておられるからには、誓って、必ずこうなる(する)」という意味の慣用句です。神は必ず、干ばつによって、北イスラエルの偶像礼拝の罪を罰される、と言うのです。

果たして、その地方に雨が降らなくなり、作物が育たなくなりました。そのままでは預言者エリ

ヤ自身も、食物に困ります。しかし主は、ケリトの川のほとりで、不思議にも鳥に命じてエリヤを養われました。干ばつで川も干上がってしまったと、エリヤは、シドンに移り住むように神から命じられます。シドン！そこから異教が持ち込まれて、北イスラエルの墮落は深まったというのに！しかも神は、やもめにエリヤを養わせると仰せになりました。当時は一般に貧しく、苦しい生活を余儀なくされていたやもめ。他人を養う余裕などあるのでしょうか。

エリヤは神の仰せに従ってシドンに行き、やもめに水とパンを求めます。彼女は「あなたの神、主は生きておられます。」と皮肉を込めて返し(シドン人の彼女はおそらく、エリヤの神、主を信じて誓つてもいいが、うちには何も無い。息子と最後の食事をして、あとは餓死するしかないほど貧乏だ、と明かしました。

エリヤは、そうと聞いた上でなお、その一握りの小麦粉とわずかな油で、まずわたしに小さいパン菓子と、求めます。なんと図々しい客！——いいえ。イスラエルの神、主が、壺の粉、瓶の油を、尽きることなくお与えになる。だからまずイスラエルの神、主への捧げものとして、小さいパン菓子を作ってわたしに持ってきなさい。エリヤはそう言ったのです。

これはチャレンジでした。シドンのバアルではなく、やもめにすれば外国の神、イスラエルの神、主を信じよ、と言うのです。さらに驚くべきことに、彼女はエリヤの言葉とおりにしました。そして、主はお言葉とおりに、このやもめの家に、尽きることなく壺の粉、瓶の油をお与えになり、やもめによって預言者エリヤを養われたのでした。「主は生きておられる」。やもめもエリヤ自身も、慣用句として以上に、この言葉の真実なことを味わつたことでしょう。

現代の日本でも、「主は生きておられます」。エリヤのみならず神の子イエス・キリストまでもが遣わされて、「主は生きておられる」ことが示されました。今や、わたしたちが主のお言葉を信じるかどうか問われています。

主の周りに座って

六 戸 信次郎

見よ、兄弟が共に座っている。なんとという恵み、なんとという喜び。

この詩篇一三三編の冒頭の、み言葉には、いつも心をホッコリさせられます。

一月十日主日礼拝で松谷先生から、詩篇一三三編とマルコによる福音書第三章二十(三十五節)を用いて、「主イエスの兄弟、姉妹」という説教をいただきました。

マルコによる福音書第三章二十(三十五節)は、新共同訳聖書では、「ベルゼブル論争」「イエスの母、兄弟」と小見出しがついているところで、特に「イエスの母、兄弟」は私達には比較的なじみがある聖書箇所だと思えます。イエスの母、兄弟たちがイエスが入っている家の外に立って、イエス様を呼ばせませす。二十一節には「取り押さえに来た。」とも書いてあるとおりです。このことを知らせて来た人にある有名な「わたしの母、私の兄弟とはだれか」と言われ、さらに「見なさい。ここにわたしの母、わたしの兄弟がいる。」といわれるのです。私は以前からこの聖書箇所を読むたびに、かすかな違和感を感じていました。実の母、兄弟を前にしてのこの言葉は、ちよつと厳しい、というか、皮肉っぽいかな、という感じです。確かに他の福音書にも、「預言者が敬われないのは、自分の故郷、親戚や家族の間だけである。」とイエス様のみ言葉がありますので、主の身の回りの家族とは、特別な緊張関係があるのだな、などと、勝手な想像をしながら聖書を読んできました。ところが松谷先生の説教を聞いて、聖書の理解がひっくり返りました。なぜなら、前述したイエス様の二つの言葉

の間に、「周りに座っている人々を見回して言われた。」という言葉が挟まっていたのです。ここでイエス様が語り掛けた先は、イエスの実の母、兄弟ではなく、イエスの周りに座って、み言葉に聞き入っている人々です。真ん中に主がいてくださり、その周りに座ることが許されている、私たちがだったことに気が付きました。

この時、私の頭に浮かんだのは、私たちの教会のことでした。コロナ禍の中、教会の礼拝に共に参加できない大切な仲間が沢山いることを思いました。しかし、麻布南部坂教会は松谷先生のご尽力により、礼拝の一部始終を聞くことができます。また、ネット環境が整わない方のためには、CD録音も用意されています。たとえ、同じ時間教会の会堂に集えなくとも、私たちは皆、主の周りに座っている。ともに祈り、み言葉を聞き、讃美歌を口ずさむ、その恵みと喜び、そして希望を有り余るほど身に受けていることに気付かされたのです。

最近、コロナウイルスに罹った人たちの症状なども報道されることも増え、感染経路がはつきりしないことや、急激な呼吸障害などの、恐ろしい話を聞くと、正直とても不安になります。小さな体調の変化にドキッとすることもしばしばです。

百年前、スペイン風邪によって日本だけでなく、世界中がとんでもない危機に襲われていた時、麻布南部坂教会は誕生しました。世界中に福音を、主がすでに来てくださり、神の国はもう近づいている。このことを人々に伝えたくて、伝道の砦を築いたのではないかと私は勝手に想像してしまっています。

百年前も、今も、私達には最も大切なものが与えられている。真ん中に立って、弱い私たちを支えてくださっているお方がいらっしゃる。そのことを想い、ただただ、有難く感じる毎日です。

報 告

*南部坂幼稚園では、一月六日(水)から三学期が始まりました。

*新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、教会学校と聖書を読む会は、一月十七日(日)より二月七日(日)まで休止としました。主日礼拝は、従来通りマスクを着用、手指消毒等の対策を取りながら継続します。無理なく出席できる方のみ、教会にご参集ください。それ以外の方は、ご自宅等で礼拝をお捧げください。

*各献金(月定献金・特別献金、東京神学大学後援会献金、隠退教師を支える運動、神学生を支える献金、会堂建築献金)への協力を、引き続き宜しく願います。

《各部報告 一月度》

成人会

日時 一月十七日 主日礼拝後
場所 教会堂会議室
出席者 三名
開会祈祷 下奥敏子姉
内容 聖書研究…「出エジプト記」二十四～三十一章

イスラエルの神がイスラエルの民の前に姿を現わされた、最初で最後の瞬間が語られている。イスラエルの民は神の前で食事をした。民は現実に神を見たので、この現実を二千年以上、深い深い信仰として守ってきました。

神は六日間天地を創造して七日目は休まれた。この「掟」は永遠に守るようにと云われた。私たちは現在も一週間に一日を休日にして生活を守ってきた。主は「掟」の十戒を記した二枚の石板を

シナイ山でモーセに託された。
次回 二月二十一日

「出エジプト記」三十二～三十四章
担当 ヤング肇子神学生
閉会祈祷 黙祷

婦人会

日時 一月二十四日 主日礼拝後
場所 教会堂会議室
出席者 三名
開会祈祷 菊池才知子姉
閉会祈祷 黙祷
内容 聖書研究 サムエル記下一～三章五節

ベリシテ軍との戦いに敗れたイスラエル王サウルの討報に接し、ダビデはサウル王とその子ヨナタンの死を悼み、詩を読んだ。「弓」と題するその詩をユダの人々が歌うように指導し、「ヤシャルの書」に収録された。ダビデは主の託宣に従い、妻子と麾下の兵たちとその家族を伴い、ヘブロンに登って住み、人々にユダの王とされた。ダビデはギレアドのヤベシユ人に使役を送り、謝意と主の加護の祈りと激励、自分がユダの王となったことを伝えた。

サウルの子イシユ・ボシエトがユダを除く全イスラエルの王となった。ユダ族は独自路線をとり、イスラエルから孤立していた。北イスラエルと南ユダは内戦状態であった。ダビデ王家は益々栄え、サウル王家は衰退していった。ダビデは模範的なリーダーとして記述されている。ヘブロンでダビデは六人の息子を得た。

次回 二月二十八日「サムエル記 下」三章六節～五章十六節まで

